

## 原 著

## 臨床実習ログブック導入の経験と今後の課題

白澤文吾, 藤宮龍也, 松井邦彦, 瀬川 誠<sup>1)</sup>山口大学医学部附属医学教育センター 宇部市南小串1丁目1-1 (〒755-8505)  
山口大学医学部附属病院医療人育成センター<sup>1)</sup> 宇部市南小串1丁目1-1 (〒755-8505)

Key words : 臨床実習, ログブック, 卒前医学教育

## 和文抄録

山口大学医学部医学科では, 二年前より臨床実習用のログブックを導入し, 学生と教員に活用を促してきた。その目的として, 学生にログブックの記録を振り返ってもらい成長の記録として役立てて欲しい事, また多忙な教員が短い実習期間の中で効率よく学生を指導するため, 学生自身の学習意欲を高めさせることといった効果を期待していた。

今回, ログブックの活用状況に関するアンケート調査を, 臨床実習学生と全診療科臨床実習担当教員に実施した。

調査の結果から, 学生, 教員ともにログブックが臨床実習の場に浸透しているとは言いがたい現状だった。しかしながら, 本来のログブックの目的である「復習や振り返りに役立った」が学生からの自由記述回答で最も多かった。また, 学生からの改善策として「診療科毎のログブックの扱いに対する温度差が大きく, 全体での統一した活用法を決めて欲しい」との回答が最も多く, 早急な改善が必要であると思われた。

今後, 臨床実習の充実に向けて, ログブックの改訂を行いながら, 学生と教員の双方にログブックの有用性を理解してもらい, 活用を積極的に働きかけることが必要であると考えられた。

## はじめに

ログブックは, 本来航空日誌や航海日誌として使用されてきた。克明にその時々状況を記録することで, 振り返りに有用な資料となり, 技能や技術の発達を促すツールになるとされている。最近, 臨床実習教育の中にログブック導入の成果が報告<sup>1, 2)</sup>されている。当医学教育センターでも, 臨床実習における医学生の学びをサポートするため, 平成24年度より臨床実習ログブック(図1)を作成・導入し, その活用を促してきた。

導入後二年を経過し, その使用状況や現状での問題点の把握と今後の改善策を考えるため, ログブックの活用状況に関するアンケート調査を, 臨床実習

図1 ログブック  
臨床実習で導入したログブックの見開きページ。

学生と全診療科臨床実習担当教員（主に各診療科教育主任）双方に実施した。その結果の一部を、若干の文献的考察とともに報告する。

対象と方法

平成26年2月に、山口大学医学部医学科5年生を対象に、質問紙法の調査を無記名回収式で施行した。この時期は、大学病院での全ての診療科をローテーションして行う臨床実習1の終了間際である。質問紙には、あらかじめ選択肢を提示し、5段階の評定尺度を用いて回答を依頼した。加えて意見や感想については、自由記述とした。倫理的な配慮として、回答は任意であり、無記名で各人が同定されることはないこと、集計された結果が成績評価には影響しないこと、また結果を学術雑誌や学術集会で発表することがある点を書面と口頭で伝えた。

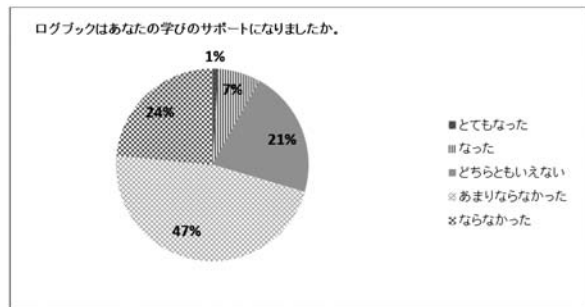
全診療科の教員（主に教育主任）22名に対しても同様の趣旨でアンケートを実施した。

回収率は、学生100% (98/98)、教員100% (22/22)であった。

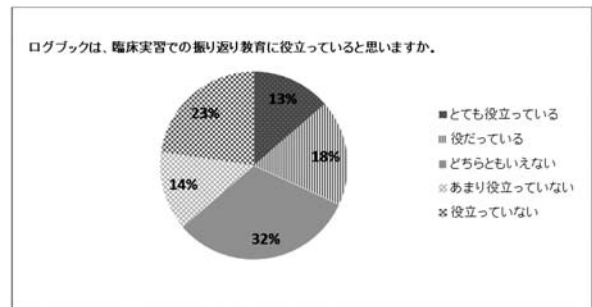
結果

学生のアンケート結果からは、ログブックは、「学びのサポートになりましたか」との問いに、「とてもなった」「なった」は8%であり、「あまりならなかった」「ならなかった」は71%であった。また「ログブックを使って指導医からのフィードバックやアドバイスはありましたか」との問いに「毎回あった」「だいたいあった」は14%であり、「あまりなかった」「なかった」は47%であった。また、学生の指導医へのログブック提出頻度は、「毎回提出した」「だいたい提出した」は10%、「あまり提出しなかった」「提出しなかった」は47%であり、指導医からのフィードバックの頻度とほぼ同じであった(図2)。教員のアンケート結果からも、学生の教員へのログブックの提出頻度にばらつきがあることがわかった。

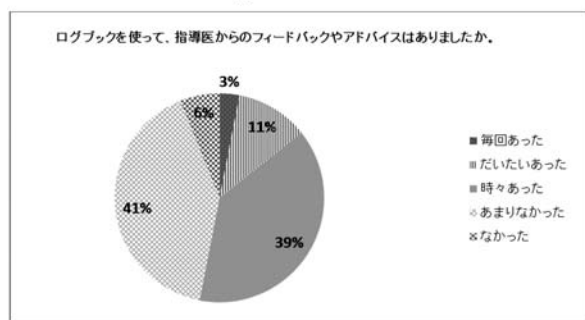
教員へのアンケート結果からは、「ログブックは、振り返り教育に役立っていますか」では、「とても役立っている」「役立っている」が31%、一方、「あ



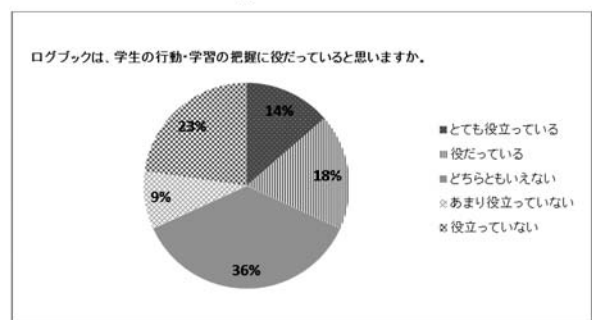
A



A



B



B

図2 学生へのアンケート調査回答

A. 「学びのサポートになったか」では、「とてもなった」「なった」は8%であり、「あまりならなかった」「ならなかった」は71%であった。  
 B. 「指導医からのフィードバックやアドバイスはあったか」では、「毎回あった」「だいたいあった」は14%であり、「あまりなかった」「なかった」は47%であった。

図3 教員へのアンケート調査回答

A. 「振り返り教育に役立っているか」では、「とても役立っている」「役立っている」が31%であり、「あまり役立っていない」「役立っていない」は37%であった。  
 B. 「学生の行動・学習を把握するのに役立っているか」では、「とても役立っている」「役立っている」と、「あまり役立っていない」「役立っていない」が同率であった。

表1 教員・学生へのアンケート調査自由記述回答

## 【良かった点】

## 『学生』

- ・ 復習や振り返りに役立った (32名)
- ・ 指導医のコメントが嬉しかった
- ・ 指導医のコメントでモチベーションが上がった
- ・ 診療科によっては提出を義務づけられたので、少しは真面目に実習をするようになった

## 『教員』

- ・ 学生とのコミュニケーションに有用であった
- ・ 学生の実習内容が把握できる
- ・ 学生のモチベーションが上がるかもしれない

## 【改善すべき点】

## 『学生』

- ・ 診療科毎のログブックの扱いに対する温度差が大きく、全体での統一した活用法を決めて欲しい (25名)
- ・ 各診療科独自のレポート類との違いがわかりにくかった
- ・ ログブックに本音を書きづらい
- ・ 記載内容の変更等の改訂が必要
- ・ 大きくて携行に不便なため、ログブックのサイズを小さくして欲しい

## 『教員』

- ・ 大きくて重たいので携行に不便である
- ・ 学生がログブックの活用方法を知らない

まり役立っていない」「役立っていない」は37%であった。また、「ログブックは学生の行動・学習を把握するのに役立っているか」との問いは肯定的、否定的な意見が同率であった(図3)。

自由記述で良かった点として最も多かった回答は、学生は「復習や振り返りに役立った」(32名)、教員は「コミュニケーションツールとして有用であり、実習内容が把握できる」であった。改善すべき点として最も多かった回答は、学生は「診療科毎のログブックの扱いに対する温度差が大きく、全体での統一した活用法を決めて欲しい」(25名)、教員は「常時携行するには大きすぎる」であった。主な自由記述の回答は表1にまとめた(表1)。

## 考 察

ログブックを用いた新しい医学教育手法が普及する中<sup>1-5)</sup>で、我々は臨床実習学生の学びのサポートの一助として、二年前よりログブックを導入した。今回の調査からは学生、教員ともにログブックの使用が浸透しているとは言いがたい結果であった。ログブック導入の目的として、学生がその記載内容を振り返り、成長の記録として役立たせることを期待した。また教員に対しては、忙しい日常診療や研究の中で、大学病院での短い臨床実習期間に効率よく学生を指導するために、ログブックのやりとりを通じ、学生の学びの状況把握やコミュニケーションの助けとなればとも考えた。また学生へのフィードバックが、学生自身の学習意欲を高めることも期待した。初めての試みであり、導入に当たって記載の方

法や内容にも制限は設けず、簡便さを考え表裏一ページを一週間として区切った。実習期間を通じて症例や行動を振り返る内省の項目も設け、ポートフォリオにも近い形式にした<sup>5, 6)</sup>(図1参照)。学生には、各診療科での実習初日にその週の目標を記入すること、実習を行った内容や経験した内容などを毎日記入すること、そして一週間の実習終了時には、その週の振り返りを行い反省点やこれからの課題等を記入した上で指導医に提出し形成的評価としてのフィードバックをもらうことなどを、あらかじめ臨床実習開始時のオリエンテーション時に、ログブックの目的や意義と共に指導した。

しかしながら今回の調査より、学生、教員双方のログブックへの理解や活用、また学生から指導医へのログブック提出など、現状でのさまざまな問題点が明らかになった。その一方で、我々が期待していた効果として、「復習や振り返りに役立った」と肯定的な回答も、学生からの自由記述では最も多かった。学生から挙げられた改善策としては、「診療科毎のログブックの扱いに対する温度差が大きく、全体での統一した活用法を決めて欲しい」が最も多かった。一方で、教員アンケートの結果からは、実習終了時に学生からのログブック提出が徹底されていない一面も伺うことが出来た。

今後の対策として、各診療科の教員へ、ログブックの使用法および有用性について、FD(Faculty Development)等を通じ十分に周知することが早急に必要であると思われた。しかしながら、教員の異動や教育担当者の交代が頻回にあるため、組織として理解の定着は容易でなく、引き続き注意すべき課題であろう。

ログブックとはどのようなものを学習者(医学生)のみならず評価者(教員)双方が、深く理解し有効活用することが出来るように継続的かつ地道で積極的な啓蒙活動を行っていく必要があると考えられた。また平行して、学生と教員への聞き取り調査等も随時行い、その時点での問題点を抽出し、現場での学習教育効果を向上させるために、より使いやすいログブックを目指して改訂していく必要があると思われた。

## 結 語

1. 臨床実習にログブックを導入して二年が経過した。
2. アンケート結果からは、学生と教員の双方にログブックが浸透しているとは言いがたい結果となった。
3. 臨床実習の充実に向けて、端緒についたばかりのログブックの有用性を学生と教員に理解してもらい、積極的な活用を働きかけ、ログブックの内容も使いやすいように改訂していくことが必要である。

## 引用文献

- 1) 田村雄一, 香坂 俊, 門川俊明ほか. Logbookを用いた臨床実習におけるアウトカム基盤型医学教育の報告. 医学教育 2011; 42: 82.
- 2) 鈴木康之, 加藤智美, 青木美奈子ほか. 臨床実習へのログブック導入と評価. 医学教育 2007; 38: 105.
- 3) 牛島高介, 中島 裕, 松本 敦ほか. クリニカル・クラークシップへのポートフォリオ導入の経験. 医学教育 2007; 38: 407-409.
- 4) 山蔭道明, 山本浩貴, 佐藤順一ほか. 麻酔科選択クリニカル・クラークシップへのポートフォリオ導入の試み. 麻酔 2005; 54: 551-556.
- 5) 錦織 宏. ポートフォリオとアウトカム/コンピテンシー基盤型教育. 医学教育 2012; 43: 296-298.
- 6) Davis MH, Ponnampereuma GG. Chapter 37 Portfolios, projects and dissertations. In: Dent JA, Harden RM, eds. *A Practical Guide for Medical Teachers*. 2nd ed. Churchill Livingstone, Edinburgh, 2005; 346-356.

## Situation of Logbook Implementation and Future Problems in the Bedside Teaching of Yamaguchi University

Bungo SHIRASAWA, Tatsuya FUJIMIYA,  
Kunihiko MATSUI and Makoto SEGAWA<sup>1)</sup>

Center for Medical Education, Yamaguchi University School of Medicine, 1-1-1 Minami Kogushi, Ube, Yamaguchi 755-8505, Japan 1)  
Career Development Center, Yamaguchi University Hospital, 1-1-1 Minami Kogushi, Ube, Yamaguchi 755-8505, Japan

## SUMMARY

We developed a logbook for bedside teaching two years ago and encouraged students to utilize it in bedside teaching. We wanted students to use the logbooks to record their growth, and to reflect on their past logbooks. We believe it is first necessary to develop in students the motivation for independent learning, so that a busy teacher can efficiently train students despite time constraints.

As two years have passed since the introduction of the logbook, we administered a questionnaire survey about the current situation of the logbook to a bedside teaching student and a teacher. For the further improvement of bedside teaching, it is necessary for us to actively refine the logbook and improve it for the sake of both students and teachers.